

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基本とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の三項目を教育目標とする。

- 思いやりのある子 …自分に自信をもち、友だちを大切にできる子
- よく考える子 …めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子 …あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○子供が学びたくなる、明るく楽しい学校 ○保護者や地域の方が通わせたい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○自分に自信をもち、友だちを大切にできる子 ○めあてをもち、意欲的に学習する子 ○あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○子供のよさを認め・伸ばし、情熱をもって育むという信念をもつ教職員 ○協働性を重んじ組織の一員として自己の職責を果たすことができる教職員 ○授業力向上のために、努力を惜しまない教員 ○課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことができる教職員 ○考えや発想を、適時実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状について

令和5年4月現在、582名の在籍児童で新年度がスタートした。令和5年度、100名の新1年を迎え、18学級でスタートした。特別支援教室には41名が入室した。令和4年度末に加平小に勤務する教職員の概ね1/3程度の入れ替えがあった。この動向は今年度末も予定しており、持続可能な加平小学校の学校運営ができるよう、3年越して準備を進めてきたが、新たに加わった教職員はもとより、改めて教職員集団の協働性を育み、常に協働性と組織的対応、学校として、共通の指導観をもって職務が遂行できるようにしていく必要がある。そのためには、校長が明確な経営方針を発信し、副校長・主幹教諭を組織の要として他の教職員を導けるようにしていかなくてはならないと考えている。教員同士が互いに声を掛け合い、専門性を生かして研鑽し合い指導力を高め合える教員集団を目指したい。しかし、引き続き若手教員や保育・病気事情のある教員が複数在籍していることを考えると、これで積み上げてきた成果を存分に活用し、加平小学校の教育の質が低下しないよう教員一人一人が自己の職責を理解し、一層努力をしていくことが課題

となっている。

令和5年度も引き続き持続可能な学校運営ができるよう、今後の加平小学校を担う人材の育成を確実に行う。これからもライフ・ワーク・バランスを保ちながら、例えば、校務の平準化と一般化、教育の質の担保等、人員が入れ変わっていく中でも、学校教育全般が円滑に進められるよう全教員で取り組んでいく。また、保護者や開かれた学校づくり協議会など地域の方々から学校に寄せられる期待は大きいため、コロナ禍であっても、子供たちに最高の教育を提供できるよう、本校の歴史と伝統を受け継ぎ、学校・保護者・地域の連携を強化しながら、引き続き学校改革を推しすすめていく。

重点的な取組事項－1 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価97.5%で設定目標を達成した。コロナ禍が続いているが、新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。挨拶活動については、教員・PTAによる挨拶活動を学校公開期間に実施する。また、感染対策を講じながら児童による挨拶活動を再開する。教職員による挨拶活動を通年で取り組み子供たちの豊かな心を醸成していく。

引き続き規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に学校全体で指導していく。また、自己肯定感を育ませるために、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習や大会・イベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項－2 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

昨年度は区学力調査通過率80%以上を目指した。結果7月の通過率は89.1%で目標を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着70%以上の児童80%以上を目指してきた。結果、国語89%、算数89.1%、全体として89.1%で達成できた。70%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、85%以上達成に向けて、つまずきのポイントを絞って繰り返し指導していく。

また、昨年度は学力向上につながる教員の授業力・指導力向上に関して、国語科を通じた校内研究を学校全体で実施した。小中連携の取組では、講師を招聘した講演会を1回実施した。教科別分科会でも、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努めた。今年度は、小中連携の取組を中心に学力向上に資する研究を推進し、加えて小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

重点的な取組事項－3 体力向上に向けた取組の推進

昨年度は、健康な体づくりも、制約の多い中、体育の授業等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組など、できることから始め、感染防止対策をしながら活動を少しずつ広げてきた。保健指導・食育指導についても、ショートの保健指導、給食だよりによる食育指導などできる指導を実践してきた。常にPDCA（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。

今年度も常にPDCAサイクルを大切に取組の充実に努める。加えて、体力調査の結果から課題を焦点化し、体育の授業の改善、日常の運動する

機会の設定等を実施していく。また、感染対策を講じながら、課外スポーツ活動等、区の大会への参加をすすめていく。

重点的な取組事項—4 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

カリキュラムマネジメントを充実させ、教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともにSDGsを意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発している。例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開する。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習を行う。加えて、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営組織の構築を進める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	人権と生命を尊重する教育			◎	◎	
2	基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)	◎	◎	◎	◎	
3	体力向上に向けた取組の推進			◎	◎	
4	地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現			◎	◎	

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項—1		人権と生命を尊重する教育			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
自己肯定感・思いやりの心を育てる	「楽しく学校生活を送っている」 自己評価90%以上	児童アンケート：94.1%達成	「楽しく学校生活を送っている」について94.1%で設定目標を達成できた。集団での活動が増えてきているので今後も友だちや先生とのかかわり合いを通して、すべての児童が楽しい学校生活であるよう努める。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

読書活動の充実	読書ファイル 児童アンケート「楽しんで読書できたか」自己評価 80%以上	日常的に読書活動に取り組み、本に親しむ態度を養う。 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をする。(週3回)(全学級週1回以上貸し出しの時間を確保する。) ・旬間中は、目標冊数(低10冊・中400ページ・高500ページ)に向けて読書をする。(読書旬間6月2月) ⇒読んだ本の感想などを読書カードに記入する。 ・教員や図書委員会による読み聞かせを年2回行う。	・「楽しんで読書できたか」 94.8%達成 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をするのが週3回できている。 ・図書委員会が実施したスタンプラリーもあり、旬間中は、目標冊数(低:10冊・中400ページ・高500ページ)を達成(6月)児童が多くいた。	・図書委員会のスタンプラリーの効果もあり、旬間中に低学年を中心に多くの利用につながった。課題として、高学年の利用につながることを委員会などで考えていく。 ・2月の旬間に向けても委員会で検討中。	◎
なかよし標語	いじめアンケート項目追加 「友達に優しくできた」 (6月、11月に実施) 左記項目にて肯定的回答率 90%以上	テーマを決めて児童に言葉を書かせ、期間中掲示する。年2回 5月「言われてうれしかった言葉」 10月「友達と仲良くするために」 ハート型の用紙を連ねて廊下に掲示する。1年生は用紙を切ることが難しいため、6年生が切ってあげる。1年生はそのお礼をして交流してもよいこととする。	・年間2回、全校児童がなかよし標語を考え、昇降口前のガラス戸に掲示した。1回目は6年生と1年生の交流もできた。 ・アンケートで「友達に優しくできた」と答えた児童は、96.1%であった。	学級ごとに本取り組みに対する意識付けを行ってから標語を作成したが、その指導内容に差があった。事前に各担任に指導のポイントを示したり、道徳の授業で扱ったりするよう案内が必要であった。	◎
あいさつ運動	ハッピー貯金(年3回)「家族や大人にあいさつをした」 肯定的回答率90%以上	看護当番(日直)が毎朝昇降口前に立ち、登校を見守りながら児童に挨拶をする。(通年) 学校公開期間中は開かれた学校づくり協議会やPTAの役員の方にあいさつ運動に参加していただく(年2回)	・家族や大人にあいさつをした94.8%達成 ・靴箱の前で実施した。各学級で役割分担をしてあいさつ運動に取り組むことができた。 ・学校全体的に、気持ちの良い挨拶をすることができた。	学級によっては、朝早く来た一部の児童のみの参加になってしまった。各学級でも曜日ごとに振り分けをし、全員が参加できるようにしたい。	◎

<p>道徳教育の充実【改善】</p>	<p>「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 「相手の気持ちを思いやること」ができましたか」 2月 肯定的評価 80%以上</p>	<p>毎週1時間の道徳授業を要に全教育活動で実施【指導体制】全教職員【取り組みのねらい・目的】 ・思いやりの心を育む。 ・道徳地区公開講座の実施 ・人権・生命尊重に関する授業を年3回実施 ・心に関わる掲示コーナーを各クラスに設け、道徳授業の振り返りに活用する。</p>	<p>児童アンケート「友達と仲良く助け合うことができた」「友達やクラス、学校のために行動することができた。」両方とも94.1%達成 ※来年度はアンケート項目をそろえる</p>	<p>・週に1時間の道徳の時間を行いながら、一人一人の心を育ててきた。児童の自己評価では9割を超える児童が友達やクラス、学校のために行動することができたと感じていることが分かった。相手のことを思いやり、行動できる児童が多い。更に相手の立場になり、相手を思いやる心が育まれていくよう、道徳の授業を要として、日常生活でも思いやりのある行動を価値付けていく必要がある。</p>	<p>◎</p>
<p>児童集会の充実</p>	<p>「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 2月 肯定的評価 80%以上</p>	<p>毎週木朝 15分【指導体制】全教職員【取り組みのねらい・目的】 ・協力・助け合いの心を育む ・縦割り班遊びの実施 ・児童集会・音楽集会の実施</p>	<p>児童アンケート「友達やクラス、学校のために行動することができた。」94.1%達成 2月にも実施する</p>	<p>児童が楽しんで主体的にいた。一部年間計画通りに実施できないことがあったが、臨機応変に変更し、実施予定の内容は取り組めた。</p>	<p>◎</p>

重点的な取組事項-2		基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的基本的な学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査目標 通過率 80%以上 ・9月 到達目標 全体 通過率 85%以上 ・2月 到達目標 通過率 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査通過率 国語 88.0% 算数 85.9% ・9月全体通過率 国語 87.9% 算数 86.0% ・2月プレテスト通過率 国語 75.8% 算数 65.4% 	<p>4月、9月共に、当初の設定目標を達成した。一方前年度よりポイントが2%下がっている。また、9月の通過率が4月当初に比べて伸びなかったことより、前年度今年度の復習を中心に個に応じた指導をする。</p>	<p>△</p>

B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程 度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継 続 ・ 改 善	朝学習の充実 朝授業(国語)の 充実	国語 算数 国語	毎週 火・水・金 朝15分	【指導体制】担任+専科による 【ねらい・使用教材】 ・学習内容の復習 ・国語 漢字小テスト ・算数 AIドリル	定着度 確認テスト (9月実施)	2月通過率 各75%以上	・9月通過率 国語全体 87.9 % ・2月通過率 国語 75.8% 算数 65.4% 2教科 70.6%	朝学習では新出漢字の 練習や漢字小テストを徹底 して行った。漢字の学習で は、とめ、はね、はらいを意 識して取組み、適宜 AI ド リルにも取り組んで前年度 までの漢字の読み書きもし っかりと身に付くようにした。 算数のAIドリルの取組み は学級により差があったこ とより、再度取組み内容を 設定する。達成目標を下回 ってしまったため、年度末に 向けて重点的に補習を行 う。	△
継 続	放課後補充教 室算数 (全教職員)	正 答 率 70 未 満 の 児 童	毎週 木 放課後 30 分	【指導体制】担任+専科 【ねらい・使用教材】 ・つまずきに応じた指導 ・次へのステップ	定着度 確認テスト (9月実施)	9月通過率 85%以上	・9月通過率 算数全体 86.0 %	9月の通過率は当初の目 標である85%以上を達成 することができた。つまずき に応じた指導として個別プ リントを中心に取組むこと もできた。現学年の内容の 復習中心となることがあ ったため、過去の学習のつま ずきより解消して現算数学習 内容がわかる積み重ねの 学習を今後行っていく。	◎
継 続	「家庭学習の手 引き」の活用	全児童	年3回	【ねらい・目的】 ・「家庭学習の手引き」の配布 (6月)、啓発(9月・1月) ・宿題の提出率把握と指導	宿題提出 状況調査	宿題提出率 90%以上	宿題提出率 91%達成 今年度より、生活リズム 向上ウィークとして実施 した。	宿題の提出率を向上ウイ ークのみでなく、日々の取 組みとすることで、意識を高 めていく。	◎

継続・改善	授業力向上	教員	毎日	【取り組みのねらい・目的】 ・管理職、教科指導専門員による授業指導3回以上 ・タブレットの活用推進(一日一回以上活用)	授業研究実施	授業アンケート 肯定的評価 80%以上	・管理職、教科指導専門員による授業指導3回実施。 ・タブレットの活用(一日一回以上活用)実施。	・管理職、教科指導専門員による授業指導実施し、指導講評や参観教員の感想を通して授業者が改善点に気付くことができた。	◎
-------	-------	----	----	---	--------	---------------------------	--	---	---

重点的な取組事項-3		体力向上に向けた取組の推進							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度	
健康な体づくり		○体力・運動能力調査結果 握力・柔軟性・瞬発力・投力の4種目を都の平均に近づける		瞬発力(反復横跳び)は都の平均を上回っている。投力・握力・柔軟性は都の平均を下回っている。 ※下記参照		調査前に、技能ポイントを児童に指導し、よりよい結果が出るよう、実技研修を行う。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度
健康な体づくり	外遊びを進んでする運動することが好き 自己評価90%以上		外遊びの奨励 エンジョイタイムの実施(年10回) 長縄跳び(年5回) らんらんタイムの取組(年5回) 体育朝会(年4回)		学校生活振り返りアンケート「休み時間には、外で元気に遊ぶことができた。」の肯定的回答は95.1%であった。現状エンジョイタイム、長縄跳び、体育朝会は実施することができている。		エンジョイタイムでは、長縄跳びと兄弟班遊びを兼ねて実施することができた。長縄跳びについては、今までの経験不足から回数の低さが見られた。指導方法についても校内で共有していく必要がある。		◎

<p>体力・運動能力調査</p>	<p>体力・運動能力調査結果で、握力・柔軟性・瞬発力・投力を区の平均に近づける</p>	<p>調査結果を基にして強化領域の決定 体育指導技術向上のための実技研修(年3回)</p>	<p>瞬発力(反復横跳び)は都の平均を上回っている。投力・握力・柔軟性は都の平均を下回っている。</p> <p>【握力(kg)】(-1.2) 1年: 男子(-1.0) 女子(-0.4) -1.4 2年: 男子(-0.3) 女子(-0.8) -1.1 3年: 男子(-1.4) 女子(-0.2) -1.6 4年: 男子(-0.9) 女子(-1.0) -1.9 5年: 男子(-1.0) 女子(-0.9) -1.9 6年: 男子(+1.0) 女子(-0.4) +0.6</p> <p>【柔軟性(cm)】(-4.7) 1年: 男子(-0.8) 女子(-1.7) -2.5 2年: 男子(-2.6) 女子(-3.0) -5.6 3年: 男子(-1.7) 女子(-2.9) -4.6 4年: 男子(-2.3) 女子(-2.8) -5.1 5年: 男子(-1.7) 女子(-4.3) -6.0 6年: 男子(-1.7) 女子(-2.8) -4.5</p> <p>【瞬発力(回)】(+1.6) 1年: 男子(-0.1) 女子(+1.6) +1.5 2年: 男子(-1.0) 女子(+2.2) +1.2 3年: 男子(-0.9) 女子(+2.7) +1.8 4年: 男子(+0.4) 女子(+0.1) +0.3 5年: 男子(+0.4) 女子(+0.8) +1.2 6年: 男子(+0.4) 女子(+3.2) +3.6</p> <p>【投力(m)】(-1.2) 1年: 男子(-1.0) 女子(-0.5) -1.5 2年: 男子(-0.8) 女子(-0.2) -1.0 3年: 男子(-1.1) 女子(+0.9) -0.2 4年: 男子(-0.7) 女子(-0.5) -1.2 5年: 男子(-1.9) 女子(-0.5) -2.4 6年: 男子(-0.5) 女子(-0.6) -1.1</p> <p>体育だよりで体育科の指導法を校内で共有することができた。(3回) 実技研を1回行うことができた。</p>	<p>瞬発力は都の平均を1.6上回っている。握力、投力は1.2下回っている。柔軟性は4.7下回っている。</p> <p>運動能力調査前に実技研修を行い、正しく測定したり、児童の運動能力向上に努めたりできるようにする。また、柔軟性については特に課題が見られるので、日々の授業の中でも柔軟性を意識した準備運動や補助運動を取り入れることができるように実技研を今年度取り入れる。</p> <p>連合運動会が実施され、職員の陸上競技に関するポイントを指導する必要があった。陸上競技だけでなく、領域ごとに指導する必要がある。</p>	<p>△</p>
------------------	---	--	---	--	----------

食育	食育指導の実施	ランチルーム給食時の食育指導実施 ・栄養士による (各学年3回以上)	・全学年ランチルーム給食を4回以上実施し、発達段階に応じた食育指導を毎回実施した。	給食時の5分間の食育指導は、時間確保のため、配膳時間を短くして、早めに食べ始められるようにする必要がある。	○
保健指導	保健指導の実施	担任と養護教諭・栄養士の連携授業 ・保健指導(3年以上各1回) ・食育指導(2・3年各1回) 発育測定時の保健指導実施 (全学年 年3回) 歯みがき指導(各学年1回) ・養護教諭による(2年以上) ・歯科衛生士による(1年)	・具体的方策は全て実施できた。 ・全学年に発達段階や教育課程に合わせた保健指導を発育測定前に実施している。 ・歯みがき指導については、1年、5年対象に竹ノ塚保健所の歯科衛生士と連携し、実施した。	歯みがき指導については、保護者や校内での理解や協力が必要である。今後は、新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、だんだんとコロナ禍前の生活に戻ってきているため、積極的に進めていきたい。	◎

重点的な取組事項-4		地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
魅力ある教育活動の展開	各学年が地域にある教育資源(人・施設等)を活用した授業を実施する。	全学年…スポーツテストの補助員 3名来校 1年生…生活科の公園での体験 2年生…町探検 3年生…スーパー(ライフ)見学 4年生…ボッチャ体験のスポーツ推進委員 4名来校 5年生…歯科医師による歯科指導の実施 6年生…税務署より租税教室実施	各学年、地域にある境域資源を活用し、様々な取り組みを行うことができた。来年度も引継ぎを行い、同じように価値のある活動をすすめていく。	◎	

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
伝統的な言語文化に関する指導	俳句指導の実施、「おーいお茶新俳句大賞」への参加、席書会の実施(参加率9割以上) 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)の実施(年1回実施)	俳句指導、「おーいお茶新俳句大賞」への参加のための指導 書写(硬筆・毛筆)指導 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)の活用	「おーいお茶新俳句大賞」への参加は今年度より希望制とした。 俳句指導実施 「一茶まつり」参加 席書会年明け実施予定 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)は年明け実施予定	「おーいお茶新俳句大賞」への参加は来年度実施せず。「一茶まつり」は来年度も実施。	○
ろくまる	2月 児童アンケート 肯定的評価 80%以上 地域や学校のためにできることを考えて行動した。	2年生が生活科見学で訪れる。地域の見守り、働いている人の話などを聞き、地域の方への感謝の気持ちや地域のために自分たちができることを考える。学習後まとめのポスターや手紙などを学校に掲示し、他学年で地域や学校のためにできることを考える。	児童アンケートは2月に実施	・生活科の町探検で訪れた。ろくまるについて知るために疑問や知りたいことをインタビューした。インタビューしたことをもとに、ポスターを製作途中。 ・地域の働いている人に実際にインタビューし、話を聞くことで、自分たちができることや、地域のことを知ることにつながる。	○
タブレット端末を活用したICT教育の推進	・年に3回、教員を対象にしたOJT研修を実施する。	OOJT研修の実施	・授業に役立つアプリケーションの紹介 ・プログラミング教育について ・AIドリルの活用について以上、全3回のOJT研修を実施した。	全3回のOJT研修を実施することができた。今年度は、ICT支援員が授業に役立つアプリケーションを紹介した。来年度は、各学級で、どのような場面でどのようなアプリケーションを使っているのかを伝えることで、より実践的な研修を実施したい。	◎
体力・向上	12月までに1回 ボッチャ体験教室の実施 アンケート(授業後) 肯定的評価80%以上	地域のスポーツ指導員を招聘し、ボッチャ体験を行う。ボッチャを体験することで、障害者スポーツに興味をもち、スポーツ志向や障害者理解を図る。	実施後アンケートにおいて肯定的な回答が91%であった。	今回のボッチャ体験教室を通して、4年生は総合的な学習の時間「福祉について調べよう」の学習につなげることができた。簡易的なルールにして、どの学年でもボッチャセットを活用して、体験できるようにしていく必要がある。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価94.1%で設定目標を達成した。コロナ禍による感染防止対策が減り、以前の教育活動が戻っている中で新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。今年度は集会や教員・PTAによる挨拶活動に加え、児童による挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適切な声で挨拶する子供が増えてきた。立ち止まって挨拶をする子や廊下ですれ違う時に会釈をする子も増えてきている。規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に指導していく。また、自己肯定感を育ませるために、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習や大会・イベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項－2 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

区学力調査通過率80%以上を目指してきた。結果7月の通過率は86.5%で目標を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着70%以上の児童80%以上を目指してきた。結果、国語88%、算数85%、全体として86.5%で達成できた。70%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、85%以上達成に向けての努力を続ける。また、学力向上につながる教員の授業力・指導力向上に関しては、教員が毎年実施する授業発表(年3回)や教師道場、区小研での授業発表をお互い見合い、振り返りを行うことで、各自の授業力向上につなげている。また、小中連携において、講師を招聘した講演会を1回実施した。教育課題別分科会でも、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努める。さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

重点的な取組事項－3 体力向上に向けた取組の推進

健康な体づくりのために体育の授業やエンジョイタイム等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や陸上運動、持久走の取組など、できることから始め、感染防止対策をしながら活動を少しずつ広げてきた。保健指導・食育指導についても、各学年の健診前の保健指導、給食だよりやランチルーム給食による食育指導などできる指導を実践してきた。今年度は、常にPDCA(計画→実践→評価→改善)のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。今年度も常にPDCAサイクルを大切にして取組の充実に努める。また、感染対策を講じながら、課外スポーツ活動等、区の大会への参加をすすめていく。

重点的な取組事項—4 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

カリキュラムマネジメントを充実させ、教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともにSDGsを意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発する。例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開する。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習を行う。加えて、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営組織の構築を進める。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子供たちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身に付けさせていく役目があります。また、子供たちに基本的な生活習慣が身に付くようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身に付けることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いが同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が必要不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。そして、家庭・地域・学校にとって共通の役割は、子供たちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心(心の強さ)」「意欲」「誠実さ」「好奇心(興味・やる気)」「社会性」「協調性(思いやり・協力)」「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校・家庭・地域が互いに同じ方向を向いて、子供に働きかけることが大切です。「子供たちのために」とともに力を合わせてまいりましょう。

○保護者・地域の皆様の学校に寄せる熱い想いを強く感じています。学校は、子供あつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから、学校は、子供や保護者、地域の声に耳を傾け、その願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く加平小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子供たちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子供たちに働きかける体制を確立していきたいと思えます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

平成26年度に新校舎に移転してから9年が経過した。新校舎の恵まれた環境を生かした教育活動を進めてきている。来年度の新入児童数は100名3学級が見込まれている。全校児童は586名、学級数も18学級の予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。またビオトープを生かした環境教育や道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切にして、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等も育成していきたい。今後も児童数・教職員数ともに増加が見込まれる。これをチャンスと捉え、学校全体を活性化させ、チャレンジ精神をもって教育活動を充実させていくとともに、家庭・地域との連携を強め、ともに子供に働きかけていく体制を強化していくことが本校の使命である。